90-13-3186

慶應義塾大学ビジネス・スクール

キューバ危機

米ソの冷戦

1962 年、就任 2 年足らずの米国のケネディ大統領は重大な決定を迫られている。米国とソ連は世界の政治と安全保障の主導権をかけて争っている。米国は経済力でソ連を上回り、核戦力でも圧倒している。しかしソ連にも、米国の諸都市を壊滅させる核戦力があり、ヨーロッパに配備されている通常（非核）戦力ではソ連が米国を上回っている。ソ連はその影響力を地理的に拡張させる政策をとっている。影響下に収めた同盟国の体制を守ることにも積極的で、1956 年に同盟国であるハンガリーで反体制の民衆蜂起が起きると、ソ連はただちに派兵して鎮圧した。一方で米国も影響力の拡大には余念がなく、中南米、東アジア、アフリカなどで、情報機関の工作によって国内の勢力争いに介入していた。米ソは世界的な規模で同盟国の獲得競争をしていると言って良い。

ベルリンの統治は、米ソの対立を象徴している問題である。ドイツは第二次大戦後に東西に分断され、西ドイツには米国、英国、フランスが軍を駐留させ、東ドイツにはソ連が軍を駐留させている。旧首都のベルリンは東ドイツの地域にあるが、4 カ国の軍政下にあり、やはり東西に分断されている。西ベルリンは東西ドイツの国境から約 150 ㎞東にあり、米英仏が軍を駐留させていて、実質的に西ドイツの飛地のようになっている。西ベルリンと西ドイツを結ぶ交通手段は、途中で降りられない 3 本の鉄道と 3 本の高速道路、および航空便だけが認められている。ソ連は西ベルリンから米国などの影響を排除しようと、1 年近く西ベルリンを封鎖して圧力をかけたことがある（陸路の東西ドイツ国境での検疫を極端に強化することで、4 カ国協定を守りながら実質的に封鎖した）。しかし米国はじめ西側は、生活物資などを空輸して西ベルリンを守った。その後もソ連および東側は、文化的・思想的先進性を宣伝したが、ベルリンの東西間は市民の通行が自由であるなか、一方的に東ベルリンから西ベルリンに亡命する者が相

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 大林厚臣によって作成された。
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/ へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。
Copyright© 大林厚臣（2013 年 10 月作成）